

今月の管内農業情報(田原農業改良普及課)

[2018年8月13日]

7月の農業情報

タイトル 緑肥作物(ソルゴー)の作付面積が増加

とき 平成30年6月

ところ 田原市内

主体・対象 露地野菜生産者

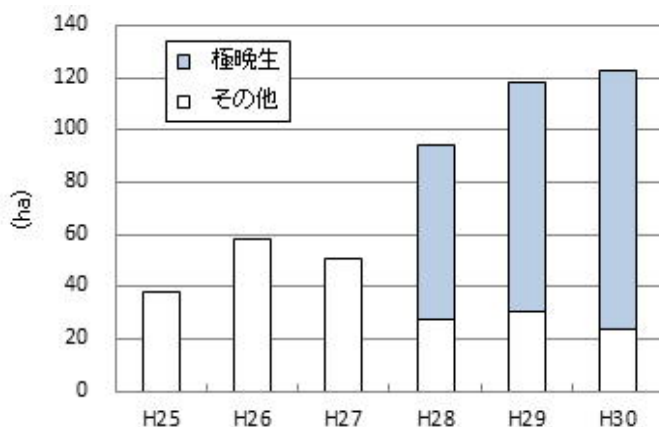
内容

田原市内では、土づくりを目的としてソルゴーを中心とした緑肥作物の栽培が増加している。平成30年のソルゴー導入面積は123haであり、5年前(25年)と比べて3.2倍に増加した。

ソルゴー栽培は、平成16年にJA愛知みなみ常春部会の部会員全員がエコファーマーの認定を受けたことを契機に徐々に増加してきた。近年は、キャベツの年2作体系が増加し、地力低下が心配されることから、土づくりの重要性が再認識されて導入が増えてきた。

園芸施設周辺では、出穂したソルゴーにアザミウマ類が寄生し施設内に侵入することが危惧された。それを回避するため、平成27年から田原市環境保全型農業推進協議会土づくり検討部会(市、JA、農業改良普及課で構成)で品種特性調査を行い、平成28年から出穂の遅い極晩生品種の導入が始まった。

農業改良普及課では、県の地域戦略促進支援事業を活用し、この取組を推進してきた。今後も、露地野菜の生産安定に向け、関係機関とともに土づくり対策を推進する。



ソルゴー導入状況(農業改良普及課調べ)